

令和5年度 授業評価アンケート実施結果

令和5年10月実施

<結果と分析>

	課題・成果等	改善策・向上策・目標等
国語	どの質問に対しても、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の回答が多かった。目的意識を持って学習に取り組むことができるよう、目標や評価の方法を示してきたが、それが生徒のモチベーションに繋がっていると考える。今後、授業に集中できる雰囲気工夫して作ってきたい。	今後も生徒が自らの成長を実感でき、達成感を得られるよう、課題や授業内容を工夫していきたいと思う。書く・読む・話す・聞くの4つの力をバランス良く伸ばすことができるように授業を展開し、授業の中で「できた」「わかった」と思えるような場面を増やして、生徒の意欲や授業の雰囲気作りを繋げていきたい。
地歴公民	1-5の各項目について、昨年度より「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した生徒の割合が上がっている。一方で、「授業に集中できる雰囲気である」について、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した生徒が減少している。	改善した項目については、ワークシートの回収頻度を上げ、生徒の質問に答える機会、フィードバックする機会が増やしたことが要因と考える。継続して丁寧なフィードバックを行い、さらなる改善に務める。 授業の雰囲気に関しては、日常の疑問を出発点にした授業を増やすことで、より生徒が実感的に、目的意識を持って学べるよう工夫することで、改善したい。
数学	進路目標をしっかりと持っている生徒たちは前向きに取り組もうとする姿が見られる。しかし、数学を不得意とする生徒が多く、中には授業中の態度が良くない生徒が一部おり、課題提出の際に他の生徒の答えを移すだけの生徒もいたりして力をつけさせたい生徒への取組が課題となっている。	小テストや復習プリントを授業中に取り組みせ基本知識の習得とそれらを活用できる様子する取組を行っている。また、課題やワークブックの提出を定期的に行い学習習慣を確立左折ための方策にも取り組んでいる。
理科	昨年と比較して全ての質問で「当てはまる」の回答が増えており、多くの質問ですべて「当てはまる」の回答であった。生徒の授業に対する姿勢が向上してきていることや、教材の工夫や授業の展開の変更が適切であったことが要因として考えられる。	実験・観察やICT機器の活用を通し、今後も生徒の学習内容の理解を深めていきたい。また、科学に対する興味・関心を高めながら、生徒が「わかった」と実感できる授業を展開し、生徒がより積極的に授業に参加できるように工夫していきたい。
外国語	授業前に準備が出来ているとの問いに、9割を超える生徒が概ね準備をしているとの回答があった。このことから、授業参加に対して主体性があり、意欲的に参加しようとする行動力が見られる。また、授業の内容を「よく当てはまる」、「だいたい当てはまる」と答えた生徒も9割を超え、生徒の理解が深まった授業展開ができていたと考察した。	分析結果から、授業における主体性が見られることから、基礎力定着を大切にしながら、スピーキングやライティングの実践をより多く取り入れて、生徒の英語能力の汎用性を養いたい。そのために、英語力の習得だけではなく、国際理解の授業を展開し、生徒の意識や視野を広げていきたい。
保健体育	昨年度と比べて、多くの項目で、よく当てはまると答えた生徒の割合が増加している。教科内での意見交換を増やし、授業へ反映させたことが大きいと考える。しかしながら、昨年度は回答が0だった、全く当てはまらなと答えた生徒が、全ての項目に1人いたため、見直しを図る必要がある。	保健においては、ICTを有効的に使う授業を心がけ、生徒の意欲関心を向上させることを目標に取り組んでいきたい。体育では、得意・不得意という生徒のバランスを考え、全員が主体的に臨み、技能向上を伸ばせる授業を目指していきたい。
芸術	「できた・わかった」が全くないと5名の生徒が回答している。昨年7%だった「わかりにくい」が1%に増加している。	楽器の演奏や作品制作において困難を感じる生徒が多く、説明の提示の仕方を工夫したが効果が得られていない。器楽の題材は容易なものへと変更してきているが、器楽においては題材そのものの検討が必要。
家庭	全ての評価項目において「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えた生徒が90%以上となっているが、そのうち「よく当てはまる」と答えた割合が昨年度と比較し、ほとんどの項目で増加した。それぞれの評価項目の結果が作用し合っ、今回の結果につながっていると考える。一方で、評価項目番号1で「あまり当てはまらない」と答えた割合が7.7%であることは課題である。	さらに「わかる授業」を目指して、教員一人一人が授業力を向上させるとともに、実物や写真を提示し、生徒が興味関心をもつよう、工夫していく。また、これまで実施してきた、学習内容・授業目標の提示を授業開始時だけでなく、授業の中盤に組み込むなどし、生徒の理解が深まるよう、確認しながら授業を進めていきたい。
情報	今年度は昨年度と比較すると、「授業に集中できる雰囲気である」以外の項目において、「よく当てはまる」と回答している生徒の割合が増加した。一方、昨年に比べ「あまり当てはまらない」と回答のある質問項目が増加した。回答結果の背景として、定期考査や観点別評価の結果から、学習習慣のついていない生徒とそうでない生徒の差があったためではないかと考えられる。	引き続き、教材研究や対話的な授業展開を意識しながら、学習意欲の低い生徒に対しての授業内でのフォローを入れ、「わかる」が実感できる授業を行い、生徒の学習意欲向上にも努める。また、学習習慣を向上させるためにサブノートを活用してきたが、改めて明確な活用方法の説明を行い、学習課題への取り組みの意識を高める。
農業	概ね、高評価が得られた。少人数に対する手厚い指導が功を奏したと思われる。	少人数指導を効果的に実施するとともに、実習と座学の関連性を高め、より一層、学習効果の向上に努めたい。
工業	よく当てはまる、だいたい当てはまると回答する生徒がすべての項目で90%以上になっている。1年次では、専門的な内容にも意欲的に取り組んでいる姿が見受けられる。また、2・3年次も系列の授業以外の資格や校外活動などにも積極的に参加している。設計などの座学の授業で生徒の興味関心をどのように引き出ししていくかが課題である。	現在、全学年で5S講習会、1年次板金、2年次溶接、QC講習会、3年次溶接課題研究、外部講師を招聘し指導に当たることで実技指導の充実を図っている。また、本年度から全年次でプログラミング実習を導入しICT教育の充実を図っている。今後も座学等でも更に活用しながら充実した授業にしていきたい。
商業	評価の仕方、質問への受け答え、授業の雰囲気、授業進度、各自の授業準備などについては7割を超える生徒が「よく当てはまる」と回答しており、授業への対する満足度が高いことが分かった。しかし、最初にその日にすることがわかる授業（実習）である、の項目は「よく当てはまる」が5割程度であり、授業の導入に丁寧に取り組む必要があると感じた。 また、授業で「分かった」、「できた」と思うこと、真面目に取り組んでいると感じていることなどは、「よく当てはまる」が5割程度であることから、生徒自身の自己評価が低いことが分かった。	導入部分については、学習のねらい・身近な事例との関連性などを伝え、「なぜ学びが必要か」を意識させていきたい。 授業の理解度・取り組み状況について「よく当てはまる」と感じる生徒を増やすためには、授業の振り返りの機会を増やしていきたい。そして、必要なら補習や課題等に取り組ませることで解決を図りたい。
福祉	昨年度の結果を踏まえ、1年次の社会福祉基礎に関しては、教科書の中でも重点事項を抜粋し、従来のプリント形式のみならず、パワーポイントなどを使用し、できるだけ理解が容易になるような工夫を行ったことで、前年度よりも「わかった」「できた」と実感している生徒が多くなったと思う。	生徒自身が日々の授業において理解度を適宜、振り返ることができるよう、到達度チェックなど取り入れ、「よく当てはまる」の生徒数が増えるように心がけていきたい。また、宿題や小テストの実施回数を増やし、理解度を定期的に測れるようにしていきたい。